

D-2 名取市北釜地区

2012年1月24日(火)

報告者名	沼田 愛	被調査者生年	生年未確認(所見、60代くらい)
調査者名	島村 恭則	被調査者属性	山の神講講長
補助調査者	沼田 愛		

山の神講

山の神講のまつりでは、以前はおくずかけ、きんぴらごぼう、ハウレンソウのおひたし、漬物などを用意し、参拝者に振る舞っていた。しかし、若年の講員が食事の用意を倦厭したため、その後は寿司をとるようにした。現在は寿司をとることもやめ、神主に祈祷してもらったあとは、食事処のようなところに移動し、そこで共同飲食をしている。

地区のまつり

地区のまつりとしては、毎年11月23日の下増田神社の新嘗祭や、毎年10月第1日曜日の町内会のまつりなどがある。

新嘗祭では、北釜地区の子どもたちが神輿を担ぎ、北釜地区内をまわる。神輿を担ぐ子どもの後ろに親と警察官だけが集落内をまわり、神職は神輿につかない。地区内の各家では、家族が門の所にとって神輿を迎え、賽銭をいれる。神輿が地区内を一周して神社に戻ったら、子どもたちは地区の集会所でカレーライスなどを食べ、おとなは直会としてお酒を飲む。

震災があった昨年は、春も秋もお参りはしたが、直会はしていない。しかし参加者は多かったという。今年の正月も下増田神社にお参りした。町内会では元旦に元旦祭をして参拝客を迎えていた。

震災後も神社の宮の掃除は続けている。下増田神社は、御神体の入っている方の宮だけが津波のあとも残っていた。山の神の宮の畳は、下増田神社の氏子から寄付を集めて敷き替えた。

年末のヒハライ

毎年12月20日から25日くらいになると、下増田神社の宮司がヒハライ(火祓い)に各家を回っていた。ヒハライは、その年の12月ころに亡くなったひとがいる家では行わない。神主はお祓いをし、ヘイソクと塩を配った。現在は、宮司が家を回るのでなく、住民が社務所に集まって、そこで宮司に拜んでもらい(お祓いを受け)、ヘイソクと塩を受け取る。